

# かがわ総合リハビリテーションセンター雑誌 創刊によせて

岡山大学医歯薬学総合研究科生体機能再生・再建学講座（整形外科学）教授

尾崎 敏文



かがわ総合リハビリテーションセンター雑誌第一号発刊にあたり、心からお祝い申し上げます。

かがわ総合リハビリテーションセンターは、昭和34年に香川県立ひかり整肢学園として設立以来52年の歴史があります。その間、昭和61年には、香川県身体障害者総合リハビリテーションセンターとして病院・重度身体障害者更生援護施設・福祉センターの併設も行われました。また、平成18年には、指定管理者制度の導入と同時にかがわ総合リハビリテーションセンターに名称を変更し、肢体不自由児施設の2病棟を統合、平成20年には回復期リハビリテーション病棟の増設、療養介護施設の併設など、医療制度や社会情勢の変化に対応しつつ、医療と福祉の充実を図りました。このように長きにわたり香川県民の身体障害者に対するリハビリテーション医療を支えさえてきた、大変貴重な地域に密着した施設です。

かがわ総合リハビリテーションセンターと岡山大学整形外科学教室との関係は長く、香川県立ひかり整肢学園の創立初期より、当教室で学んだ整形外科医師がかがわ総合リハビリテーションセンターに多数勤務し、地域の医療の向上に尽力して参りました。また、岡山県の旭川荘療育センター療育園、愛媛県の愛媛県立子ども療育センター、高知県の高知県立療育福祉センターとともに、岡山大学整形外科関連四施設研究会を毎年開催するなど、小児整形外科疾患や脳性麻痺などの診断・治療について、研鑽を重ねると同時に、若い医師の研修にも寄与して参りました。研究や教育は、医療の進歩・向上のために非常に重要な役割を果たしており、これからも引き続き継続・発展していく必要があります。

このようななかで、かがわ総合リハビリテーションセンターにおいて医療や福祉に関わりながら研究してこられたものが刊行されることは、本当に喜ばしいことです。かがわ総合リハビリテーションセンター雑誌が今後ますます充実し、医療の進歩・向上に貢献していくことを祈っております。